

清流に戻った川のお話と侍従川讃歌

わきの谷戸 廣瀬隆夫 (2025/11/22)

人口 370 万の大都市・横浜のなかで、金沢区はどこか不思議な場所です。シーサイドラインが軽やかに走り、産業団地が並び、八景島シーパラダイスなど近代的で便利な“まち”の顔をしっかりと持ちながら、一步奥へ入れば、海で遊ぶ子どもたちの声が聞こえ、山を歩けば木々が揺れ“ムラ”の良さも息づく、いまでは珍しい地域です。

その金沢区の南部を静かに横切るように、一本の短い川が流れています。源は鎌倉へ向かう塩の道で知られる朝夷奈切通。その湧き水を集め、わずか 2 キロあまりの旅をして平潟湾へ注ぐ侍従川です。古くからの照手姫伝説が語り継がれ、土地の人の記憶とともに流れ続けてきた小さな川です。

かつて侍従川は、大道一带に広がっていた田んぼを潤し、稲を育てる農業用水として働く川でした。人々はここで野菜を洗い、生活の一部として水と寄り添ってきました。それは、川が“生活のとなりにある自然”だった時代のことです。

ところが、宅地造成が進み、人口が急激に増えた 1970 年頃、侍従川は姿を変えてしまいます。生活排水が流れ込み、生き物が棲めないほどの悪臭が漂う、誰も近寄りたくない“汚い川”になってしまったのです。

今から 30 年くらい前に、中流域で、川を昔の姿に戻そうという動きが始まりました。「壊れた川の自然を自分たちの手で取り戻そう」そんな願いを胸に、地域の人々が立ち上がりました。



1970 年頃の生き物がいない侍従川



生き物があふれる現在の侍従川



子どもたちのパラダイスとなった侍従川

■ 活動の始まりは小学校のトンボ池

侍従川の再生の物語は、思いがけないほど小さな場所から始まりました。大道小学校の裏庭にある、静かなトンボ池。そこで泳いでいたメダカたちが、いつの間にか侍従川へ流れ出し、たくましく繁殖していることがわかったのです。

「ならば、この川を昔の清流に戻そうじゃないか。」

そんな声が、子どもたちと地域の人たちの間から自然と湧き上がりました。当時の侍従川は、決して川と呼びたくなるような姿ではありませんでした。自転車などの粗大ごみが投げ込まれ、鼻をつく臭いが漂う、誰も近づきたがらない“ゴミ捨て場”だったのです。

それでも、小さなメダカの姿は、川の未来を想像させてくれました。毎月の川掃除。水をきれいにするためのアシやマコモの植栽。

地味で、泥にまみれる作業ばかりでしたが、川は少しずつ息を吹き返していきました。

やがて、その変化は外の目にもとまり、1996年にはNHKが取材に訪れました。番組のタイトルは「都会の川に生き物たちが戻った」。放送を見たとき、多くの人が胸を熱くしました。

川を変えたのは、立派な機械でも大きな予算でもありません。きっかけは、「侍従川を昔のように子どもたちが遊べる清流に戻したい」という素朴な願いでした。



NHKの取材風景



NHKの番組のYoutubeのQRコード

■ 昔の清流を取り戻した侍従川

いまの侍従川を歩くと、昔の荒れた姿を思い出せないほどです。岸边にはアシやマコモが風にそよぎ、濃い緑が川の輪郭をやわらかく縁取っています。その緑に誘われたように、生き物たちが次々と戻ってきました。

春になると、カルガモの親子が水面をそっと進んでいきます。母ガモのあとを、小さな雛たちが一列になって一生懸命ついていく姿は、見ていだけで頬がゆるみます。源流近くでは、夕暮れの光の中でホタルがゆっくりと瞬きをはじめ、アシの葉にはハグロトンボが羽をたたんで休んでいます。川が、また“季節を知らせる場所”に戻ったのだと感じる瞬間です。

秋になれば、ハゼがぶっくりと太り、川底で忙しそうに姿を見せます。川をのぞき込むと、メダカやアユがきらりと光り、それを狙ってカワセミが青い稲妻のように飛び込んできます。川が豊かだと、鳥たちの動きまで生き生きとして見えるから不思議です。

そして何より嬉しいのは、そんな川のほとりで、子どもたちが夢中になって魚とりをしている姿が日常の風景として戻ってきたことです。靴を脱ぎ捨て、網を握りしめ、歓声をあげながら川の中を走り回る。あの無邪気な姿ほど、この川が再び生き物と人に愛される場所になった証はありません。

侍従川は、静かに、しかし確かに、地域の四季と暮らしを取り戻してくれました。



カルガモの子育て



戻ってきたアユ



ハゼ釣り大会の釣果



子どもたちが遊べる川

■ 侍従川讃歌

昭和初期の情景に思いを重ねながら、侍従川讃歌は今も地域の人々に歌い継がれています。

一、 緑深き朝比奈の こけむす谷間若水に わき出る清き流れあり 名にしおう若水川
若水川から侍従川 流れ流れて杉の先 大道耕地を見渡せば 大堰近く水ぬるむ

二、 大水の谷戸を右に見て 川間流れ明堂橋 諏訪の橋から侍従橋 並木観音おわします
高橋過ぎて三艘へ あし原抜け高谷の里 内川橋を越えたなら 夕日にはえる平潟湾

侍従とうとうと流れ 歴史を刻むふるさとを 照手の夢を語り継ぐ 永遠の流れよ

(作詞: 廣瀬一雄 補作: 廣瀬隆夫 作曲: 高橋揚一 企画: 高橋克己 歌: 松永知史 編曲・伴奏: 柴田悦子)



侍従川讃歌の Youtube の QR コード

【参考】

- ・子どもたちのワンダーランド侍従川 「ふるさと侍従川に親しむ会」の活動
<https://kanasuta.city.yokohama.lg.jp/living/929/>
- ・ふるさと侍従川に親しむ会 <https://jijyukai.sakura.ne.jp/wp/>
- ・侍従川讃歌プロジェクト <https://kiongaoka.sakura.ne.jp/blog/2023/12/27/jijyuproject/>